

文化財保存新潟県協議会・第19回大会**「遺跡を活かしたまちづくり」**

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。

総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史と一緒に学ぼうという機会です。

今年の第196回国会（通常国会）において、文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が成立し、2019年4月1日から施行されることとなりました。今回の改正について文化庁は、「過疎化・少子高齢化等の社会状況の変化を背景に各地の貴重な文化財の滅失・散逸等の防止が緊急の課題となる中、これまで価値付けが明確でなかった未指定を含めた有形・無形の文化財をまちづくりに活かしつつ、文化財継承の担い手を確保し、地域社会総がかりで取り組んでいくことのできる体制づくりを整備するため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図るもの」（文化庁ホームページから）としています。しかし、文化財行政が地方公共団体の首長部局に移管可能となり、文化財の保存より活用に軸足が置かれるようになり、強引かつ過度な商業主義活動、観光資源化につながるのではないかとといった危惧も指摘されています。

そこで今回の大会では、近著『考古学のための法律』（日本評論社）で考古遺産法制を多面的に論じている久末弥生さん（大阪市立大学）から、法律家の立場から遺跡の保存と活用についてお話しいただきます。欧米の遺跡や博物館の実態にも詳しい久末さんからは貴重なお話しが聞けそうです。また、新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳の地元市民の方々から、その調査や活用の様子を語っていただきます。これからの遺跡の保存と活用について考えていきましょう。

大会は事前申し込み不要です。懇親会は申し込みが必要です。みなさんふるってご参加下さい。

と き：2018年12月22日（土）

と ころ：新潟市歴史博物館（みなとぴあ）・2階セミナー室

日 程：総会 12：30～13：00

大会 13：00 一般受付開始

13：30開会～16：30（終了予定）

講演「遺跡と法律—ヨーロッパ都市に見る持続可能な遺跡保護」

久末弥生さん（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授）

リレートーク「牡丹山諏訪神社古墳を巡る5つのストーリー」

新潟市東区牡丹山のみなさん、橋本博文会長

懇親会 17：00～（要予約。会費4500円程度。）

※資料代500円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

ふたつの遺跡の独立棟持柱付き建物を比較する貴重な体験！

「西岩野遺跡と古津八幡山遺跡を見学する旅」開催報告

川上真紀子



貴重な遺物が並ぶ柏崎市立博物館



1年ぶりに姿を現した西岩野の建物跡

よく晴れた10月8日（月・祝日）、待望の日帰りバスツアーが開催されました。行先は柏崎市の西岩野遺跡と新潟市秋葉区の古津八幡山遺跡。緊急の見学会企画でしたが、学生5名を含めて42名の参加者が集まりました。朝8時に新潟駅南口を出発し、途中柏崎駅で柏崎市民らが合流、大型バス一台をほぼ満席にし、まずは、柏崎市立博物館に向かいました。同博物館は、今年3月にリニューアルオープンしたばかりで、歴史・考古分野だけではなく、柏崎を丸ごと理解できるように工夫されています。学芸員の伊藤啓雄さんが説明してくださいました。歴史分野では現在から過去に向かって展示が展開されていますが、私たちは考古分野へ直行。国史跡の弥生中期後半の遺跡、下谷地遺跡や製鉄遺跡の軽井川南遺跡群などの遺物や資料を見学しました。かつて文新協で保存運動を行った軽井川南遺跡群を中心に柏崎で多く発見されている製鉄遺跡に関するジオラマが作られています。これは一見の価値があります。

製鉄の工程がよくわかり、遺跡の様子も臨場感がありました。

次に向かったのが西岩野遺跡です。この日は、研究者による検討があり、独立棟持柱をもつ掘立柱建物のシートが外されていました。私たちは、柏崎市と調査担当者の方々に配慮いただき、この機会を利用して特別に遺構を見る事が出来ました。遺構の脇に立ち、丘陵の先端にむかうと正面に柏崎の平野とその向こうに刈羽黒姫山・八国山・米山の刈羽三山が広がります。弥生の西岩野の人びとがなぜこの地を選んだのかわかる気がしました。現地に立って初めて遺跡の持つ力を感じることができます。できるならこの実感をより多くの人びとに味わってもらいたい、そのためにはこの遺跡は何としても守っていかねばならないと思わずにはいられませんでした。

バスは、西岩野遺跡全体を取り巻くように走る道路を通り、遺跡の広がりも感じる事が出来ました。掘立柱建物や方形周溝墓に限らない、高地性環濠集落としての遺跡の面も考えさせられました。

高速道路で昼食休憩をとって、新潟市古津八幡山遺跡に向かいました。古津八幡山遺跡では、国史跡の指定範囲の検討のために調査が行われていました。何とここでも独立棟持柱をもつ掘立柱建物が発見されたのです。前日の日曜日には市民向けの現地説明会が予定されていたのですが、台風の上陸のために中止となっていました。私たちが見学できたことは実にラッキーなことでした。調査担当者の相田泰臣さんの誘導で丘陵を中腹まで登り、林の中の遺構に到達しました。ここは環濠の外側に位置し、これまで調査されてこなかったところです。中腹に広がる平坦面で掘立柱建物とともに大型の竪穴建物も見つかっています。掘立柱の柱穴は、西岩野遺跡のような方形の掘方（柱を埋めるための穴）を持つものではなく、円形掘方で規模も小型のものでした。二つの遺跡の独立棟持柱を持つ掘立柱建物には環濠の外に立地するなどの共通点もあるものの、その規模や形態には

違いがあったのかもしれませんが。相田さんの案内でさらに環濠の内側の八幡山遺跡・八幡山古墳を見学し、麓の弥生の丘展示館に到着。企画展「豪族居館一王の暮らす屋敷」開催中で時間いっぱい学ばせてもらいました。車中から現地まで橋本会長の説明で充実の見学会でした。

----- 【参加者の感想】 -----

○上記2つの遺跡がほぼ同時代に営まれていた事に深い感動を致しました。その時代に生きた人々はどんな事を考え、生活していたのでしょうか、思いを新たにしました。柏崎の市民の皆様が関心を持っていただければもっと考古学ファンが増えると思っていますが、それには、もっと考古学の情報を多く市民に流す事ではないでしょうか。



「古津八幡山遺跡 歴史の広場」にて

- 西岩野遺跡や古津八幡山遺跡の発掘現場を直に見るという貴重な経験ができたと感じた。図面や文字からでは分からないこともあるということをも身をもって知り、現場を訪れるということの大切さを感じた。
- 2度講演を聞かせて頂きましたが、「独立棟持柱」の可能性について信憑性に対して疑問がありましたが、実際に現場に立ち、その信憑性の確立度が上がりました。大変有意義な一日でした。
- 西岩野遺跡があんなにすごいものだったと思っていませんでした。あそこに越後の卑弥呼がいたのかも・・・?と思うとワクワクします。今後の調査が本当に楽しみです。古津八幡山古墳、初めて来ましたが、こちらもまたこんな立派なものだったとは!! 一日、大いに楽しむことができました。最後に、事務局のみなさま、橋本先生、いつもありがとうございます。
- 西岩野遺跡、今まで講演会も出席出来ず、半分あきらめておりました。柏崎の博物館も同じく行きたかった所でした。見学会のお葉書が来たときは、本当にうれしかったです。遺跡の柱の穴の大きさ、場所、周囲の様子。自分の目で見て、説明を聞ける事を喜んでいます。柏崎のあそこに弥生時代に人が住んでいたとは、周囲を何とか広くのこしていただければと思います。

「卑弥呼の時代の巫女がいた!?!」その3を開催!

大阪と新潟の弥生時代遺跡の保存に学んだ講演会

小林隆幸

2018年3月10日（土）、西岩野遺跡をテーマとした「卑弥呼の時代の巫女がいた!?!」の3回目の講演会となる「柏崎市西岩野遺跡の保存と活用を考える」が開催されました。会場は新潟産業大学。柏崎市産業文化会館で開催した1回目の緊急講演会以来、2度目の柏崎市での開催です。会場には地元柏崎市や新潟市周辺からの参加者を中心に約70名が集まりました。今回は内容を発展させ、遺跡の性格から見えてくる保存と活用がテーマで、今後の西岩野遺跡を考えるうえで参考となる2つの講演が行われました。

1つ目の講演が文全協常任委員の久世仁士さんによる「池上曾根遺跡の保存運動と整備・活用」です。池上曾根遺跡は大阪府の和泉市と泉大津市にまたがる弥生時代の大型集落跡で、西岩野遺跡のような神殿風の掘立柱建物跡が見つかっています。その規模は大きく、年代も古く、柱の年輪から紀元前52年に伐採された木材が使われていたことが分かっています。1975年には、遺跡はすでに国

史跡になりました。これは弥生遺跡の集落跡としては画期的なことで、現在は大型掘立柱建物をはじめ、建物や井戸、環濠などが復元整備されています。ここに至るまでの道のりは険しく、血と汗のにじむような保存運動があったようです。遺跡は第二阪和国道建設による危機に直面し、遺跡の重要性に理解を示した人たちが、生活を脅かす公害問題などと軌を一にして保存問題に取り組んだ経緯などが報告されました。その内容は久世さんの講演資料にも詳細にまとめられています。

2本目が新潟市文化財センターの渡邊朋和さんによる「史跡古津八幡山遺跡の保存・整備・活用」です。古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区(旧新津市)に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落跡で、西岩野遺跡と同時代で性格も似た遺跡の保存例です。高速道路建設の土取りのため取り壊しの危機に瀕しましたが、地元グループによる積極的な保存運動により、県内最大の八幡山古墳とともに保存され、国史跡に指定され、整備され、多くの市民に活用されています。残念ながら隣接する製鉄遺跡群は破壊されてしまいました。これも大製鉄遺跡の軽井川南遺跡群を失った柏崎市の状況と似ています。渡邊さんからは、遺跡の性格や特色、遺跡を舞台に行われている様々な活動、そして保存運動の経緯が報告されました。遺跡が地域に生かされ市民の心のよりどころになっている事実を目の当たりに、「保存なくして活用はない」とした渡邊さんの発言は説得力がありました。



講演後、講演者2名とコーディネーターの橋本博文会長によるパネルディスカッション「西岩野遺跡の保存を考える」が行われました。

----- 【参加者の感想】 -----

- 遺跡が弥生時代のもので知り、説明会に出て実際現地を見たかった。1回の柏崎現地説明会ではどうしても都合つかない時もある。いく度かの現地説明会を望む。西山に物部神社もあり、ロマンを感じる。子供たちにも伝えたいが現物(遺跡)がなければ無理と思う。今回講演会を聞いて、柏崎市西岩野遺跡についての説明がなく不満です。
- 遺跡は保存してほしい。現地からの米山の景色を見ながら当時の姿にロマンを感じます。その時代にも米山が存在し、三角形の山に霊力を感じあがめていたのではないかと思いをはせています。
- 弥生時代遺跡の保存についての例を、池上曾根遺跡、古津八幡山遺跡を基に知ることができた点が最も良かったです。特に、保存なくして活用なしという言葉は、大学で発掘調査に関わった者としては、自分自身の行動を考えさせられるものでした。

編集後記

文新協では引き続き、柏崎市西岩野遺跡の動向を注視しています。遺跡の保存と活用には地元をはじめとする市民の方々の力が必要です。今後も、ご協力をお願いします。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています(ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります)。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局 (入会についてのお問い合わせも)

電話 : 090-2735-5536 (木村)

E-mail : bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ : <http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/>

文全協のホームページ
もぜひご覧ください。